

## 井上宏初代所長のご退任にあたって

笑学研究所所長 高 垣 伸 博

2015年4月、私が前職（毎日放送）を退職して本学に奉職したときには、すでに「笑学研究所」設立に向けての準備は着々と進んでいました。そして所長が井上宏先生であることもお聞きしていました。

その年の夏を迎えるころだったでしょうか、大阪城スクエアの会議室でおよそ15年ぶりに井上先生に再会したのです。というのも、井上先生が上方演芸資料館（ワッハ上方）の館長をされていたときに（1999年から3年間）、私は在阪放送局の資料部会委員を大阪府から委嘱されており、資料部会で何度かお目にかかっていたのです。

無沙汰の挨拶もそこそこに、笑学研究所設立に向けた打ち合わせをしてから早や2年が経過しようとしています。

井上先生は読売テレビ時代に編成マンとして「上方お笑い大賞」創設に関われ、また退社後、関西大学教員になられた後の1994年に「日本笑い学会」を創設、初代会長として「笑い学」を提唱、「笑い」研究の第1人者であることは言うまでもありません。

副所長である私は、放送マンそして大学教員の大先輩である井上先生の中を追いつつも何もできないまま、いたずらに時を過ごしてしまいました。

先生はご自分が関西大学在職中に果しえなかった「日本の大学で初めての笑いの研究所」が追手門学院大学にできたことを心底喜んでくださり、広報マンのごとく学外でも事あるごとに「笑学研究所」をPRしてくださって、所長というお立場だけではなく、心から研究所のことを考えてくださっていたことは、常々お話しの間々から感じ取ることができました。

研究所定例会議の度に、先生の経験談や今後進むべき研究所の方向性の話など、熱い思いを語ってくださり、ときには所員に叱咤激励をされるのですが、先生の思うように反応しない我々に歯がゆい思いをされたことと、今さらながら申し訳ないこととお詫び申し上げる次第です。

そんな我々を見捨てることもなく、三重県名張というご遠方から毎月会議にお越しくくださり、1年半もお付き合いいただきことを心から感謝申し上げます。

所長を引き継いだ私も当然ながら、所員の面々も井上宏初代所長の名を汚さぬよう精進してゆく所存ですので、ご退任されたとは言え今後ともご指導ご鞭撻をお願いいたしますとともに、井上先生も今後ますますお元気で活躍されんことをお祈り申し上げます。

井上宏先生、本当にお世話になりました。そして、ありがとうございます。